

鴨川ふるさと会だより

— 第29号 —

鴨川ふるさと会事務局発行：〒296-8601 千葉県鴨川市横渚1450番地（鴨川市役所企画政策課） TEL：04-7093-7828

プロフィール

氏名 佐々木 久之(ささき ひさゆき)氏
 生年月日 昭和45年1月16日
 学歴 鴨川市立鴨川中学校 卒業
 千葉県立長狭高等学校 卒業
 帝京大学経済学部 卒業
 趣味 釣り・バイクツーリング
 座右の銘 「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」



市長就任のあひかり

このたびの市長選挙におきまして、多くの市民の皆様から温かいご負託をいただき、第6代鴨川市長に就任いたしました。その重責に身の引き締まる思いであり、素晴らしい魅力にあふれるこの鴨川を次世代へと引き継いでいくため、全力で市政運営に邁進する所存です。

現在の本市は、人口減少や商店街の活力低下に加え、經常収支比率が百パーセントを超えるという極めて厳しい財政状況にあります。私はこの難局を乗り越えるため、まずは「財政の健全化」を最優先課題に掲げます。一律の予算削減ではなく、稼げる分野には戦略的に投資するメリハリのある経営へと転換します。

特に「ふるさと納税」については、私が先頭に立ってトップセールスを行い、現在の6億円から早期に10億円への増収を目指し、自立可能な「稼ぐ自治体」への変革を図ります。鴨川が持つ海、里山、そして日本屈指の医療資源、これらの高いポテンシャルを最大限に活用し、地域経済を力強く循環させてまいります。

私が目指す「夢と希望の持

てるまち」の実現に向け、六つの柱となる政策を推進します。第一に、農林水産業と観光の融合による「産業振興」。第二に、誰もが住みたくなる「インフラ整備」。第三に、防災体制の充実や防犯力の強化などによる「安心・安全なまちづくり」。第四に、給食費無償化の検討や学校施設の整備など、次世代を育む「教育・文化の充実」。第五に、子育て世代に寄り添い、生涯現役でいられる「健康・福祉の向上」。そして第六に、行政事務のデジタル化と効率的な「行財政改革」です。特に、一度故郷を離れた若者が、経験や知識を携えて再び鴨川に戻り、その才能を活かせる仕組みづくりにも着手したいと考えております。子どもたちの笑い声が響き、若者が夢を語り、高齢者が安心して暮らせる。そんな当たり前でありながらも、確かな幸せを感じられるまちを目指します。

幕末の志士・吉田松陰は「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし」との言葉を遺しました。強い志があれば、必ず道は開けます。私はこれからも「まちへ飛び出し、まちの声を聞く」姿勢を貫きます。ランチタイムのミニ集会などを通じて、皆様と直接対話し、そ

の熱量を市政の原動力に変えてまいります。厳しい時代ではありますが、今こそピンチをチャンスと捉え、皆様とともに「このまちに生まれてよかった」と心から誇れる鴨川を創り上げていく覚悟です。皆様のより一層のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



鴨川市 PR のため人生初のサーフィンに挑戦した佐々木市長

ふるさとセミナー開催
市長と食事も楽しみながら
会員同士が交流！

令和7年11月20日（木）、アルカディア市ヶ谷私学会館（東京都千代田区）において「鴨川ふるさと会 ふるさとセミナー」を開催しました。当日は会員14名に加え、来賓として佐々木久之鴨川市長、平川潔副市長が出席され、二部構成で実施しました。

【第一部：市政懇談会】

昼間副会長の開会挨拶により、第一部「市政懇談会」がスタートしました。

はじめに、ふるさと会佐々木誠会長の挨拶があり、「会長就任以来、初めてのふるさとセミナーを開催できた」と開催の喜びを述べられました。続いて、長く続いた夏の暑さが落ち着いたらかと思えば、秋を飛び越えて一気に冬がやってきたような近頃の気候のこと、また、全国的に相次いでいる熊被害などの近況について触れられました。加えて、テレビの旅番組等で「鴨川」の名前をよく聞くようになったとして、「鴨川の名前が広く出ることはいいいことである」と、故郷の注目度が高まっていることへの期待を語られました。最後に、参加できなかった会員について

も触れながら、「今後も事務局と相談し、こうしたセミナーや懇親会を引き続き開催していきたい」と、今後の活動への意欲を示されました。

その後、佐々木市長からは、ご挨拶と市政の現状についての説明がありました。市長は、人口減少や厳しい財政状況といった課題に触れつつも、就任以来それらの課題に正面から向き合ってきたことを語り、「鴨川市が持つ高いポテンシャルを最大限に發揮し、夢と希望の持てるまちづくりを進めていきたい」と力強く述べられました。

続いて、企画政策課より「ふるさと納税制度」について説明が行われました。制度の概要や寄附のメリット、鴨川市の現状に加え、クラウドファンディングによる寄附の募集についても紹介がありました。

その後、佐々木会長の進行により、市との意見交換を行いました。会員からは、「ふるさと会に元気を取り戻すため、全員でアイデアを出し合うべき」、「若い世代の参加を増やしたい」、「ふるさと大使の名刺に代わる新たな施策を検討してほしい」といった意見や、関係人口拡大に向けた提言など、市の将来と会の活性化に向けた具体的なアイデアが次々と出されました。

た。限られた時間ではありましたが、故郷の未来を想う熱い議論が交わされ、会員一人ひとりの「鴨川を応援したい」という強い意志が再確認される貴重な時間となりました。



市政懇談会の様子

【第二部：懇親会】

第二部の懇親会では、彩り豊かな料理を囲み、和やかな交流が行われました。久しぶりの再会を喜ぶ声や、初参加の会員を温かく迎える姿が見られ、会場は終始アットホームな雰囲気になりました。



懇親会にて乾杯の挨拶をする佐々木会長

市長、副市長も各テーブルを回り、市政の話題から地元の思い出話まで、会員一人ひとりの声に熱心に耳を傾けられていました。

最後は、山口耕作副会長による挨拶で締めくくられ、名残惜しくも盛会のうちに終了しました。

令和7年度
鴨川ふるさと会定期総会
（書面開催結果）

令和7年度の鴨川ふるさと会定期総会が開催されました。本年度の総会は書面審議方式にて行われ、会員の皆様をいただきました。

- 第1号議案…令和6年度事業報告
- 第2号議案…令和6年度収支決算
- 第3号議案…令和7年度事業計画
- 第4号議案…令和7年度収支予算

【表決結果】

総会開催時点の会員数95名のうち、回答のあった59名全員の皆様から賛成をいただき、承認されました。

【アンケート結果】

あわせて実施いたしました「鴨川ふるさと会に関するアンケート」には、36名の皆様から

ら貴重なご意見をいただきました。

「月1回以上帰省する」と回答された方が25%にのぼりました。

情報収集

61・1%の方が「自身の興味がある鴨川の情報」を積極的に収集されており、主な情報源は新聞、雑誌、インターネット、知人からといった回答が多数を占めました。

ふるさと納税

回答者の50%の方が「鴨川市にふるさと納税をしたことがある」と回答され、寄附を通じて故郷を応援してくださっている現状が伺えました。

今後の活動への要望

ふるさとセミナーの企画については、「対面での総会や懇親会」、「鴨川市の活性化に向けた討論会」の開催を期待する声が多く寄せられました。

また、鴨川の魅力を再発見するために、新たなスポットを訪れ、知見を広めたいという声もありました。

皆様からいただいた貴重なご意見は、今後のより良い会運営のための参考とさせていただきます。

令和7年鴨川市 10大ニュース(前半)

1月 鴨川市市制施行20周年記念式典を開催 キャッチコピーを「今、羽ばたく次の20年へ」に決定 年間を通じてさまざまな冠イベントも

市政の発展を祝い、郷土に対する愛着、誇りの醸成を図ることを目的として、1月19日、鴨川市役所で「市制施行20周年記念式典」を開催しました。また、市制施行20周年の式典や冠イベントなどに使用するキャッチコピーについて、投票結果に基づき選考した結果「今、羽ばたく次の20年へ」に決定しました。令和7年は「市制施行20周年記念」やキャッチコピーをイベントの先頭に付け、さまざまな冠イベントを行いました。



4月 日本航空学園鴨川キャンパスが開校 女子サッカー一部34人が鴨川で寮生活を開始

令和7年4月、城西国際大学安房キャンパス跡地に「日本航空学園鴨川キャンパス」が開校しました。

令和6年元日に発生した能登半島地震で被害を受けた日本航空高校石川(能登空港キャンパス)の女子サッカー部員22人は、令和7年4月から鴨川キャンパスに活動拠点を移し、部活動を開始しています。

その後4月14日には、全国から集まった新1年生部員12人が加わり、親元を離れ寮生活を送りながら、勉学や部活動に励んでいます。



3月 元鴨川市長片桐有而氏が逝去



元鴨川市長の片桐有而氏(77歳)が、3月9日、ご逝去されました。

平成11年5月に天津小湊町長に初当選し、平成17年2月の旧鴨川市との合併後は、鴨川市長職務執行者として、合併事務の推進や骨格予算の編成など、合併後の円滑な市政運営に尽力されました。平成21年から1期4年にわたり、鴨川市長を務め、「人間尊重、自然を敬う、市民生活優先」を政治理念に掲げ、地方自治の発展に尽力されました。

5月 AS鴨川ソーラーパワー合同会社に 調停を申し立て

田原地区における
太陽光発電事業工事着工に関する協定書
および特記協定書について説明を求める

市とAS鴨川ソーラーパワー合同会社との間で取り交わした田原地区における太陽光発電事業工事着工に関する協定書および特記協定書について説明を求めるため、調停を申し立てました。

市では、建設工事などの施工または管理を行う市内の業者名やシンジケートローンによる資金計画とその証明などを含めた5項目の事項を明らかにすることや建設工事における市民の不安を解消するため、市民を対象とした広い範囲での説明会を開催することを求めています。

3月 鴨川市長選挙で佐々木久之氏が初当選 第6代鴨川市長に就任



3月16日に行われた鴨川市長選挙で、佐々木久之氏が初当選し、同日付けで第6代鴨川市長に就任しました。

3月17日には、多くの支援者や職員に迎えられ市役所に初登庁しました。「夢と希望のもてるまちづくり」を目指す佐々木市長は、「ふるさと鴨川のため、まちへ飛び出し、まちの声を聞き、私の施策に繋げ、夢を語り、夢を叶えていきます。夢と希望が叶うまちへ、職員とともに全力をもって取り組んでいきます」と意気込みを語りました。



令和7年鴨川市 10大ニュース(後半)

7月 市長と気軽にお話しする「ランチミーティング」を実施



ランチを食べながら、市長に聞きたいことや話したいことを気軽にお話していただく「ランチミーティング」を実施しました。

1回当たり5人程度を定員とし、7月16日6人、8月20日に4人、11月19日に6人、1月21日に6人が参加しました。観光や学校統廃合、教育、清澄地区の活性化、避難所での熱中症対策、市内の交通事情、公民館活動、健康寿命に関することなどさまざまな意見をいただきました。

7月 安房鴨川駅開業100周年記念イベントやスタンプラリーを開催



開業100年を迎えた安房鴨川駅で7月20日、JR東日本千葉支社による記念イベントが開催されました。

当日は、マスコットキャラクターや鴨川中学校音楽部によるお

出迎え、鴨川萬祝染をモチーフとしたスタンプラリー、普段立ち入ることのできない電留線での車両撮影会など安房鴨川駅ならではの楽しい行事が開催され、多くの鉄道ファンや家族連れなどで賑わいを見せていました。

また、周年期間中では、郷土資料館で同駅開業100周年の企画展の開催や特急わかしお号で同駅へ来られた方を対象にしたキャンペーンを行いました。

9月 平成29年以來8年ぶり 第9回「市民友好の翼」訪問団を国際姉妹都市マニトワック市に派遣 市長も同行

鴨川市長と鴨川市国際交流協会会長鈴木健史氏をはじめ総勢14人が、平成29年以來8年ぶりに国際姉妹都市米国ウィスコンシン州マニトワック市を訪問しました。

4泊5日の日程で国際姉妹都市であるマニトワック市の



公共施設や観光施設の見学をしたほかホームビジットや市民との交流会を通じて、友好を深めました。

10月 太海エビ網組合がW受章

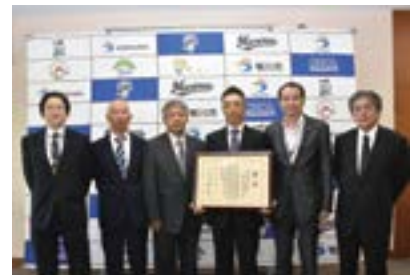
第30回全国青年・女性漁業者交流大会の資源管理・増殖部門で最高賞の農林水産大臣賞
第64回農林水産祭の水産部門で内閣総理大臣賞

太海エビ網組合が、3月に開催された第30回全国青年・女性漁業者交流大会の資源管理・増殖部門で、県代表として取り組みを発表し、最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。なお、千葉県における農林水産大臣賞の受賞は令和3年度以來、4年振りであり、水産部門では平成11年度以來、26年振りです。

その後、第64回農林水産祭において、「イセエビ刺し網漁業による漁場保全の取組」が水産部門で内閣総理大臣賞を受賞しました。

イセエビ刺し網漁業では、一般的にナイロン網が使用される中、当該団体は100年以上にわたって綿糸網でイセエビを漁獲しています。綿糸網は根掛かりしても自然分解されるため、環境に優しく、漁場の保全が図られます。また、ナイロン網と比較して伸縮が少ないため、漁獲効率が劣るものの、イセエビの活力が保たれ、結果として漁獲の安定につながっています。

「漁村の自主的な資源管理の成功事例として高く評価できる」として受賞しました。



10月 大山寺 不動堂と宮殿が重要文化財(建造物)に指定へ

国の文化審議会(会長 島谷弘幸)は、10月24日に開催された文化審議会文化財分科会の審議・議決を経て、大山寺不動堂1棟、宮殿1基を重要文化財(建造物)に指定することを文部科学大臣に答申しました。

市内の重要文化財(建造物)の指定は初めてで、市内の国指定文化財は、特別天然記念物「鯛の浦タイ生息地」、天然記念物「清澄の大スギ」と合わせて3件となります。

不動堂と宮殿は、千葉県下における修験系寺院の近世的な展開と様相を示しており価値が高いとされ、重要文化財(建造物)の指定に繋がりました。

